

# 日本鉄鋼協会記事

## 編集委員会

運営委員会 開催日：10月22日。出席者：安藤委員長代理，ほか2名。

1. 各分科会より次の報告がなされた。  
和文会誌分科会：ステンレス特集号縮切原稿数，会誌掲載記事検討小委員会で検討中の事項について，他  
欧文会誌分科会：Trans. ISIJ 進行状況について  
講演大会分科会：第92回講演大会報告，他  
出版分科会：「わが国における製鉄技術の発展(仮題)」の企画書が出され，承認された。その他

第8回欧文会誌分科会 開催日：10月15日。出席者：中村正久，ほか22名。

1. 25件の論文審査報告がなされ，修正依頼6件，掲載決定17件であった。
2. 「鉄と鋼」第63年第2号(2月号)に論文16件技術資料1件，掲載決定した。
3. 国際会議報告，留学生だより記事について検討した。
4. ステンレス特集号は，技術資料5件，論文25件技術報告4件となった。

第8回欧文会誌分科会 開催日：10月12日。出席者：中村正久幹事，ほか7名。

1. 8件の論文について審査報告がなされ，掲載可5件，照会后掲載可3件であった。
2. 「鉄と鋼」62年12号より4件の研究論文と1件のLecture，63年1号アブストラクトより2件の研究論文，62年6号よりレポート1件，及び他の会社刊行誌より Technical Features 1件について投稿を勧誘することとなった。

講演大会分科会 開催日：10月22日。出席者：安藤卓雄主査，ほか16名。

1. 第92回講演大会について  
今秋の大会の反省を行ない，来春大会の準備の参考事項とした。
2. 第95回講演大会討論会候補テーマについて  
昭和53年春季大会討論会のテーマについて検討を行ない，5テーマを内定した。

## 鉄鋼便覧編集委員会

第1回委員会 開催日：10月17日。出席者：小林佐三郎委員長，ほか16名。

- 基本方針を検討し，次の通り決定した。
1. 内容は，現便覧より実用データを増し，鉄鋼の技術者，研究者に直接役立つ実務書とする。
  2. 出版は7分冊とし，昭和53年11月～昭和56年3月までに刊行完了する。
  3. 編集スケジュール，執筆方針，各具体的な計画については各編で検討することとし，具体的な編集作業に入るため，昭和52年1月までに各編集委員会を構成す

ることとなった。

## 共同研究会

### 鉄鋼分析部会

#### 第45回鋼中非金属介在物分析分科会

開催日：8月27日。出席者：成田主査，ほか16名。  
鋼中窒化物の抽出分離法に関する自発実験及び共同研究実験の結果について検討を行なった。

- (1) Fe-B-N，および Fe-B-C-N 系試料についての自発実験結果の検討
- (2) Fe-Al-N系試料についての共同および自発実験結果の検討
- (3) N定量法についての検討
- (4) Fe-Cr-N，Fe-Cr-C-N 系試料の共同実験結果の検討
- (5) 今後の共同実験の対象試料の検討

### 運輸部会

第1回部会 開催日：10月7日～8日。出席者：島田部会長，ほか77名。

1. 調査部会では最近10年余り「運輸問題」を採り上げており，本来の役割を果す為，調査部会から，新しく独立して第1回目の運輸部会を日本鋼管福山で開催した。
2. 「流通基地の実態」をメインテーマとして，以下の研究発表が活発に論議された。
  - (1) 定期交換資料の検討
  - (2) 流通基地の実態に関するアンケート結果報告
  - (3) 製品荷役作業における省力化に関する報告  
省力化に関するアンケート結果を報告すると共に各社より，標記事例について1件宛合計6件の発表があつた。
3. 次回は来年11月川鉄・千葉で開催する予定である。

### 設備技術部会

第1回電気設備分科会 開催日：10月7日。出席者：矢沢部会長，ほか95名。

小委員会から昇格して最初の分科会は，住金・鹿島において開催され，多数の出席者により下記テーマについて活発な討論がなされた。

討論テーマ

1. シーケンスコントローラー標準化の基礎調査
2. 電力用しや断器の諸問題について
3. 集中および遠方監視の実績調査と問題点  
講演審議後，熱延工場および大形工場の電気設備関係を中心に鹿島製鉄所の見学を行つて散会した。

## 原子力部会

第13回第2小委員会 開催日: 9月20日. 出席者:  
高橋小委員長, ほか 21名.

## 1. 還元鉄海外調査報告

品川(大同)委員より, 還元鉄に関する海外調査の報告があつた. 同調査は, プカレストで行なわれた「還元鉄利用技術に関するセミナー」に出席し, MIDREX, HYL など関連会社を訪問した. 内容は特に還元鉄のスクラップに対する経済性に重点を置いたが, 鉄鉱石, 還元鉄の溶解, 各種プロセス, 還元鉄の位置づけ etc 広範囲にわたっている.

## 鉄鋼生産設備能力調査本委員会

## 製鋼設備部会

第2回転炉設備分科会 開催日: 9月22日. 出席者:  
石原部会長, ほか 13名.

## 能力算定式最終決定

過去1回の分科会及び5回のワーキンググループにおける設改訂作業で作成された能力算定式(一般式, 及び簡略式)の最終案について討議が行なわれ最終決定がなされた.

今回をもつて転炉設備能力算定式の設改訂作業は原稿作成のみを残して全て終了した.

第3回電気炉設備分科会 開催日: 10月6日. 出席者:  
石原部会長, ほか 13名.

1. 中間報告として前回までに審議した簡略式の内容を9月27日に通産省に報告.

2. 簡略式については当初, 普通鋼, 特殊鋼(低合金鋼, ステンレス鋼, 鋳鍛鋼)の2鋼種に分ける考えであつたが, 鋳鍛鋼の鋸動率が低いので特殊鋼から外し, 普通鋼, 特殊鋼, 鋳鍛鋼の3区分とし, 最終案を作ることとした.

## 鋼板設備部会

第4回分塊設備分科会 開催日: 9月24日. 出席者:  
玉本主査, ほか 12名.

## 能力算定式最終決定

過去3回の分科会及び3回(その内1回は1泊2日)のワーキンググループにおける設改訂作業で作成された能力算定式(一般式及び簡略式)の最終案について討議が行なわれ最終決定がなされた.

今回をもつて分塊設備能力算定式の設改訂作業は原稿作成のみを残して全て終了した.

## 第3回ホットストリップ設備分科会

開催日: 9月17日. 出席者: 松本主査, ほか 18名.

W.G.において検討を重ね作成した生産設備能力算定式の原案について審議した.

## 1. 一般式について

算定式の「計算例」および特殊鋼係数について変更した他は概ね原案通りとすることが決定された.

## 2. 簡略式について

ミル幅の係数を考慮することとし, 概ね原案通りとすることが決定された.

## 3. その他

帯鋼ミルについては, ホットストリップミルの算定式を使用することとし, 諸係数を別途設定することとした. また, 10月末完了予定で原稿を執筆することになった.

## 第5回コールドストリップ設備分科会

開催日: 9月24日. 出席者: 坂東主査直属幹事, ほか12名.

レバースミルおよびタンデムミルの両方について検討した.

## 1. レバースミル関係

年間圧延時間, 算定 T/H および算定能力 (T/M) について検討を行なつた.

## 2. タンデムミル関係

$C_1$ (ミル別修正係数), 算定能力 (T/M), 年間圧延時間および連続ミルの取扱いについて検討した.

## 3. その他

簡略式の原案について検討し, 概ね原案通りとすることに決定した.

また, 12月末迄に原稿作成完了の予定で執筆することとなった.

## 条鋼設備部会

第5回大形設備分科会 開催日: 9月28日. 出席者:  
児玉主査直属幹事, ほか 11名.

## 1. 大形設備能力算定式について

第4回までに完了した算定式についての確認を行なつた.

## 2. 簡略式について

①簡略式は加熱, 圧延設備各々について算出し, 算出値の Min 値を使用する.

②簡略式および係数を決定したが, 次回(第6回)に算定式による試算結果で再度チェックすることとした.

3. 算定式および簡略式についての精度チェック方法試算方法の討議を行なつた.

第5回中小形設備分科会 開催日: 9月16日. 出席者:  
寺垣主査直属幹事, ほか 13名.

1. 実働率 $\alpha$ について

一律 90% とすることに決定した.

## 2. 最終試算結果の検討

各設備についてはほぼ  $\pm 10\%$  の範囲に入つた. 年間総合能力については  $\pm 10\%$  を外れる工場があるが, 標準稼動状態に戻れば,  $\pm 10\%$  に入ると推定される.

## 3. 簡略式について

加熱炉と圧延機についてそれぞれ算定した結果全体としては  $-3.8\% - 3.5\%$  の誤差であつた. その結果, 圧延機による簡略式を採用することに決定した.

## 連続加熱炉設備部会

第3回部会 開催日: 9月24日. 出席者: 片田部会長  
ほか 14名.

各部会, 分科会の担当委員から, それぞれの部会, 分科会での審議結果について報告があつた. 個々の部会分科会の特徴を考慮しつつ係数の比較検討を行ない, ほぼ

妥的であるとの結論を得た。今後実績との比較を行なうこととした。

以上の算定式の結果より、加熱炉設備調査表の項目を検討し一部改訂した。

## 標準化委員会 ISO 鉄鋼部会

第2回 SC2 分科会 開催日：10月7日。出席者：水野主査代理，ほか10名。

### 1. 合金鋼の定義

関税協力理事会では多目的の総合的商品分類体系を目指し、ブラッセル関税率表を主体に統一商品コードシステムを78年に完成させることにしており、鉄鋼の分類については既に提案済だが、定義についても提案する必要があり通産省から依頼された。

然し合金鋼の定義を技術的に明確化することが困難なため、先に営業部門で検討提示された案と現行BTN及びISO改訂案が各種規格と対比した場合合金鋼となるか普通鋼となるかを調査した上で審議を進めることにした。調査対象規格は次のとおり

JIS, ASTM, BS, DIN, GOST, API, SAE,  
AISI, 船級協会規格, 各社規格

### 2. 鋼の定義

TC17/1673 (鋼の定義) について検討，原案に賛成することにした。

第12回 TC67 分科会 開催日：9月28日。出席者：桑山主査，ほか9名。

1. ISO 2644 (ドリルパイプ), ISO 2645 (ケーシング・チュービング) に関する各国コメントの検討

2. ISO 3183 (ラインパイプ) に対する日本コメントの作成

3. ISO 2644 (ドリルパイプ) に対する日本コメントの作成

4. ISO 2645 (ケーシング, チュービング) に対する日本コメントの作成

## データシート部会

### 第24回構造用鋼の機械的性質分科会

開催日：9月17日。出席者：山本主査，ほか6名。

1. 低温衝撃結果のチェック

2. データ整理方法

衝撃試験片の硬さは各熱処理条件毎に平均値とバラツキを記載する。

旧日特担当分は大同特殊鋼が担当する。

3. 今後の進め方

100φ材の試験結果は11月中旬までに提出，12月初旬分科会開催，全データの検討を行い来年3月中旬に発刊原稿の最終取りまとめを行う。

## 鋼管分科会

第48回分科会 開催日：10月8日。出席者：丸岡主査，ほか15名。

1. JIS 鋼管改正原案の作成

a. STPY の標準寸法

b. STB, STPT, STPA, STPL の品質

c. 水圧試験及びその代替非破壊試験

d. Uベンド

## 材料研究委員会

第22回委員会 開催日：9月30日。出席者：天明委員長，ほか12名。

日鋼・室蘭で開催された第22回委員会では、「焼入性の評価方法」に関する試験の進捗状況について各委員より報告がなされ，試験を進めるうえでの問題点，今後の進め方等について検討した。

検討項目

1. Soaking による表層脱炭について

2. 試料中のB含有量について

3. その他

また，これまでに収集，調査した文献を印刷，刊行する予定で再整理することにした。

## 鉄鋼基礎共同研究会

### 特殊精錬部会

第7回第2分科会 開催日：9月17日。出席者：相山主査，ほか13名。

1. 下記のテーマについて報告があり，質疑応答が行われた。

1) 介在物とマイクロポロシティーにおよぼす鑄型径と溶解速度の影響

2) ESR用フラックスの乾燥方法

3) ESRにおけるフラックスの不純物がおよぼす部分的偏析について

4) 大型ESR鋼塊に発生したゴーストストリークの状況とその対策

2. ESR鋼塊の欠陥事例まとめ

欠陥事例を性状に基づき，現象的分類を行い名称を付し欠陥事例写真集を作るための写真選択作業を開始した。